

起立歩(キリット) Kiritto

VOL.31

令和元年10月発行

発行：香川医療生活協同組合
高松協同病院

発行者：院長 北原孝夫

編集：高松協同病院 広報委員会

H P: <http://t-kyodo.com/>

お知らせ 通所リハビリテーション リニューアル!!

この10月から高松協同病院 通所リハビリテーション科が大きくリニューアルしました。これまでの1-2時間サービス、6-7時間、介護予防(AMのみ)のサービスから、主にAM・PMの3-4時間サービスに変更しました。9月末から、新しいリハビリテーション機器を5台導入し(うち4台は香川初!)、1つのフロアをリハビリテーション機器に特化したものとなりました。初めは戸惑いを見せていた利用者様も、使用し始めると生き生きとした様子が見られるようになりました。一方、頑張りすぎて疲れる利用者様もおられます。まだまだ、職員も利用者様も慣れるのに時間がかかるかもしれませんが、有効活用していただくように、調整していきたいと思っております。機器利用の運動記録は個人別のカードを用いてパソコンで運動の管理ができるようになりました。また、集団リハビリテーションを作新(スクエアステップやコグニサイズを導入)し、個々の運動だけでなく、利用者間でコミュニケーションが図れるようにしました。一方、利用者ごとの目標に合わせたサービスを提供するために目標を視覚化し、誰でも確認できるようにしています。まだ運用を開始したばかりなので、利用者様を始め、ご迷惑をおかけしますが、回復期リハビリテーション病院に併設する通所リハビリテーションサービスが提供できるようにしていきたいと思っております。

また、リニューアルした通所リハビリテーションの見学は随時行っておりますのでお気軽にお問い合わせ下さい。今後もよろしくお願いいたします。

※11月より、WISEMANの「すぐらく」システムを導入し、同システムを使用されている事業所様との連携がとりやすくなりました。

連絡先

087-833-2401(通所直通)

087-833-2330(病院代表)



相談室より

病院は医療サービスを提供する施設ですが、身体の状態が改善されたからといって治療後もすぐに帰宅できない場合があります。例えば「家の中が段差が多くで家で生活するのが難しくなった」「高齢1人暮らしで身の回りのことが1人でできなくなった」「お金に困って安心できる生活ができなくなった」「周囲から虐待を受けている」など、身体状態の向こう側に隠れている生活の問題を抱えておられる患者様がおられます。

そういった生活上の課題に患者様と一緒に考え、解決に向けて支援する職種としてソーシャルワーカーが高松協同病院には配置されています。

今回、当院にご入院となったある女性の患者様との関わりを紹介させていただきます。

患者様Aさんは60代後半で、ご家族とはいろいろな問題が重なり疎遠となっていました。これまで地域の方々に支えられながら生活してきましたが、転倒して頭に大ケガを負い身体が自由に動かなくなった状態で入院されました。Aさんは、入院前3頭の犬たちと生活していました。入院して翌日に地域の方々から「3頭の犬が飼い主を捜してワンワン泣いて困っている」と相談がありました。よくお話を聴くと、ご近所の方々やペットホテルの方がここ2週間程はお世話をしてくれていたことがわかりました。しかし、お世話できるのも限界にきており、里親探しが必要ではないかと相談がありました。まず疎遠になっているご家族に相談しました。ご家族も里親探しには協力してくれましたが、犬のお世話は難しいと返答がありました。そこで、香川医療生協の組合員さんや病院スタッフにも犬の里親になっていただけないかのお願いをしたところ、病院スタッフの知り合いが3頭とも引き取ってくださるとお返事がきました。当院に入院して1ヶ月半、地域の方々が犬のお世話をしてくださり、元気な状態で里親に引き取られました。夏の暑い間、もし犬のお世話をしてくださる方がいなかったら、おそらく命はもたなかったでしょう。

さて、Aさんは犬の問題以外にも金銭面の課題があり、入院費の支払いも困っておられるという問題も残っています。保険の入院給付金の請求や自動車を売って処分したり、また無料低額診療事業の利用を検討したりと、ソーシャルワーカーが支援させていただいて、Aさんは新しい生活を目指して頑張っています。

Aさんのように、病気や怪我と一緒に様々な生活の課題を抱えている患者様がおられます。ソーシャルワーカーは「困った困った」と言いながらも患者様、ご家族、そして地域の方々と解決を図っていく職種です。もし、病院に来て何か困りごとがあれば、一緒に考えていきたいと思っておりますので、ご遠慮なく総合相談室にお問い合わせください。



いつでも
ご相談ください



連絡先

087-833-2510 (相談室直通)
087-833-2330 (病院代表)

ボランティア活動

高松協同病院は生活協同組合の法人です。地域の人たちが自分たち（組合員さん）のために運営しているという点が一般の企業と異なるところです。このため、他法人では見ないような組合員活動やボランティア活動があり、職員だけではなく利用している組合員さんたちも、自分たちの病院を良くしようと日々活躍しているのです。高松協同病院の周囲には、リハビリ中の患者様や通所リハビリの患者様が散歩できるような周遊道があります。夏になると暑いし、雑草も茂ってくるので散歩に厳しくなってきます。毎年、暑さ対策で緑のカーテンとしてゴーヤーを育てており、既に本誌でもお伝えしているように高松市主催のコンテストにも何度も入賞しています。ゴーヤーなどの植物を植えているだけではありません。ボランティア活動のメンバーを中心に、冬期を除く毎月1回、早朝6時半に集まって遊歩道周りの草刈りや整備を1時間ほど行っています。朝のリハビリで散歩をしている入院患者様からも「キレイになったね」と声をかけていただくこともあり、苦労はありますが、やりがいを感じています。今後とも地域の方々と共に、皆さんの高松協同病院であるよう頑張っていきたいと思っております。



病棟残暑祭り

8月17日（土曜日）、今年もリクリエーションとして行っている残暑祭りを開催しました。一番の人気は、バイキング形式で行われる当日の昼食です。普段はあまり食べることのないメニューもあり、患者様はおいしかったと満足そうな表情をされていました。午後からは食べ物やジュース、職員から集めた品でバザーの販売やゲームの出店で楽しみました。患者様だけでなく、ご家族様の参加もあり、職員に加えてボランティアさんもサポートに加わり病棟は大いに賑わいを見せていました。出店を楽しんだ後は、ボランティアさんによるフラダンスがあり、うっとりした雰囲気となりひとときの安らぎの場となりました。当院ではリクリエーションもリハビリの一環と位置づけ今後も積極的に続けていきたいと思っております。



げんき会(患者会)より

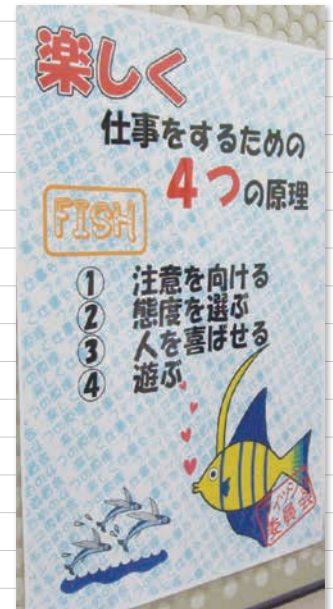
高松協同病院退院患者様で構成されるげんき会では、年に4回催し物があります。中でも春と秋の遠足は、主にバスを使用して日帰りのお出かけをしており、特に人気のあるイベントとなっています。元気に歩ける方だけでなく、車椅子の方でも楽しめるよう、スタッフがフォローし、行き先の下見を行い、トイレの設備などを確認し、参加者が安全に過ごせるように取り組んでいます。昨年は船の使用が可能な場合もあることがわかり、行動範囲が広がりました。しかし、日帰りという時間制限のなかで、時には予定通りにいかない事もあります。でもそこは会員様の寛大な心でフォローしていただけたら、会員・スタッフ共に、『しっかり楽しもう』の心意気で取り組んでいると思います。『膝が痛いから私が行ったら皆に迷惑が・・・』というお言葉を良く聞きますが、そんな事ありません。皆で迷惑かけあって、皆で助け合って楽しみましょう。げんき会は皆で楽しめる会を目指しています!



FISH委員会より

高松協同病院では、職場・職員が前向きに目的を達成することを目指し、2008年FISH哲学を学びました。「注意を向ける」「遊ぶ」「喜ばせる」「態度を選ぶ」の4つの視点に基づき当院を活性化する委員会として「FISH委員会」が設立されました。具体的には「新入職員歓迎会」「職員スポーツ大会」「忘年会」等イベントの主催。管理者と委員会から、日頃の労務を労うため、全職員対象に「誕生日カード」の作成などです。

今後も全職員が元気に、様々な課題に取り組める風土づくりを、推進していきます。



広報委員会より

高松協同病院の広報委員会は、本誌Kirittoの発行、病院、通所リハビリなどのパンフレット作成、ホームページトピックスの作成、ホームページ内容全体の見直し、院内掲示物の点検などを行っています。

職場から選出された広報委員によって構成され、隔月に一度集まり、Kirittoの記事やホームページトピックスのために各職場の情報を持ち寄り、内容を選考しています。イベントが多い時は記事の作成も楽なのですが、少ない時期は職場の担当者は何気なくやっていることでも、ちょっと面白い小ネタとして拾い上げ、できるだけ写真を撮り視覚的に皆さんに紹介できるように常に病院内にアンテナを張っています。

本誌のバックナンバーや、本誌に載せ切れなかった記事もホームページのトピックスで紹介しておりますので、是非当院のホームページ <https://t-kyodo.com/> もご覧下さい。

